



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 ★観望会で月は見えません
4 ×	5	6	7	8	9	10 教育懇談会(自由見学) 13:00-17:00
11 ×	12 × スポーツの日	13	14	15	16	17
18 ×	19 	20	21	22	23	24 ×
25 ×	26 	27	28	29	30	31 ×

施設見学 9:00～16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30～観望会終了まで

天体観望会 18:00～20:00
(定員あり/要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および
観望会で月が見える時)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。
(コンテンツは予告なく変更する場合があります)

よくある質問

観望会でよく聞かれる
質問にお答えします★

① なぜドームに暖房を入れないの？

ドーム内に暖房を入れると、暖かい空気が冷たい上空へ上昇するため、かげろうのような空気の揺らぎが発生します。かげろうを通して見る星は、ゆらゆらと揺らぎ、星の像がよく見えなくなります。そのため、寒い日も、ドーム内に暖房を入れることはできません。また、お屋敷に暖まった空気が溜まらないように、あらかじめ観測前にはドームスリットや小窓を開け、外気となじませています。

② 土星のような惑星は、毎年見える時期は変わらないの？

縞模様やガリレオ衛星が特徴の木星や、環が美しい土星といった惑星は、毎年少しずつ、見える時期が異なります。特に、金星や火星といった、地球に近い惑星ほど動きは大きくなります。星座早見盤にも載っていませんので、天文年鑑などの手帳や天文に関する雑誌 (天文台にもあります)、インターネットなどで調べてみましょう！

③ 夜空に見える天体、どのくらい離れているの？

夜空を見上げると、どの星も、同じところにあるように見えますね。しかし、地球からの距離はそれぞれちがいます。地球にいちばん近いのは「月」です。地球から約 38 万 km！月と同じ大きさに見える「太陽」までは、約 1 億 5000 万 km です。目で見える星 (恒星) は、数光年～数千光年 (1 光年＝光が 1 年かけて進む距離＝約 9 兆 4 6 0 0 億 km!) の範囲にあります。わたしたちが目で見ることのできる一番遠い天体は、「アンドロメダ銀河」です。距離はおおよそ 230 万光年！夜空で輝くほかの星よりも、ずっとはなれています。

第14回
京都・大学ミュージアム連携

スタンプラリー

開催期間
2026年9月19日 (土) ～
2027年2月23日 (火祝)

「京都・大学ミュージアム連携」が主催の、京都市内外の 16 大学のミュージアムによるスタンプラリーに、今年も神山天文台が参加しています！各ミュージアムで展覧会を見学してスタンプを集めると、抽選で素敵なミュージアムグッズなどがもらえるので、ぜひご参加ください！

他施設の情報、スタンプラリーについては、パンフレット、京都・大学ミュージアム連携 Web ページ <https://univ-museum-kyoto.com/> をご覧ください。

発行

京都産業大学 神山天文台
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 ☎075-705-3001
🌐 <https://www.kyoto-su.ac.jp/observatory/>

【公式 SNS】



@KSU_KoyamaObs



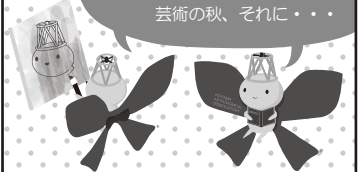
@koyama_tenmondai



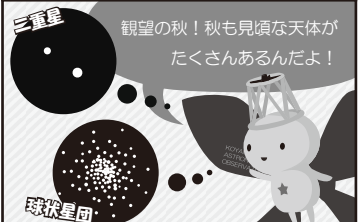
神山天文台HP

〇〇の秋

秋と言えば読書の秋、
芸術の秋、それに・・・



食欲の秋！
おいしい食べ物が
たくさんあるね！



2026 年 10 月 見ごろの天体

★土星（どせい）：Saturn

太陽系の惑星で木星に次いで 2 番目に大きい土星は、大きな環が特徴的なとても美しい天体です。南の空で黄色っぽく輝き、望遠鏡を使うと環に加えて土星の周りを回る衛星も見ることができます。土星の環は、主に直径数 cm から数 m の氷の粒の集まりで、ところどころに隙間が見られます。環の厚みは数 10 m から数 100 m ほどしかありません。

★二重星（にじゅうせい）：Double star

二重星は、肉眼では 1 つの星ですが、望遠鏡で見ると 2 つの星に見える星です。はくちょう座のくちばしに輝くアルビレオや、アンドロメダ座のガンマ星（アルマク）も色の対比が美しい二重星です。2 つの星の色の違いは、星の表面温度の違いを表しており、青い方が温度が高い星です。

★球状星団（きゅうじょうせいだん）：Globular cluster

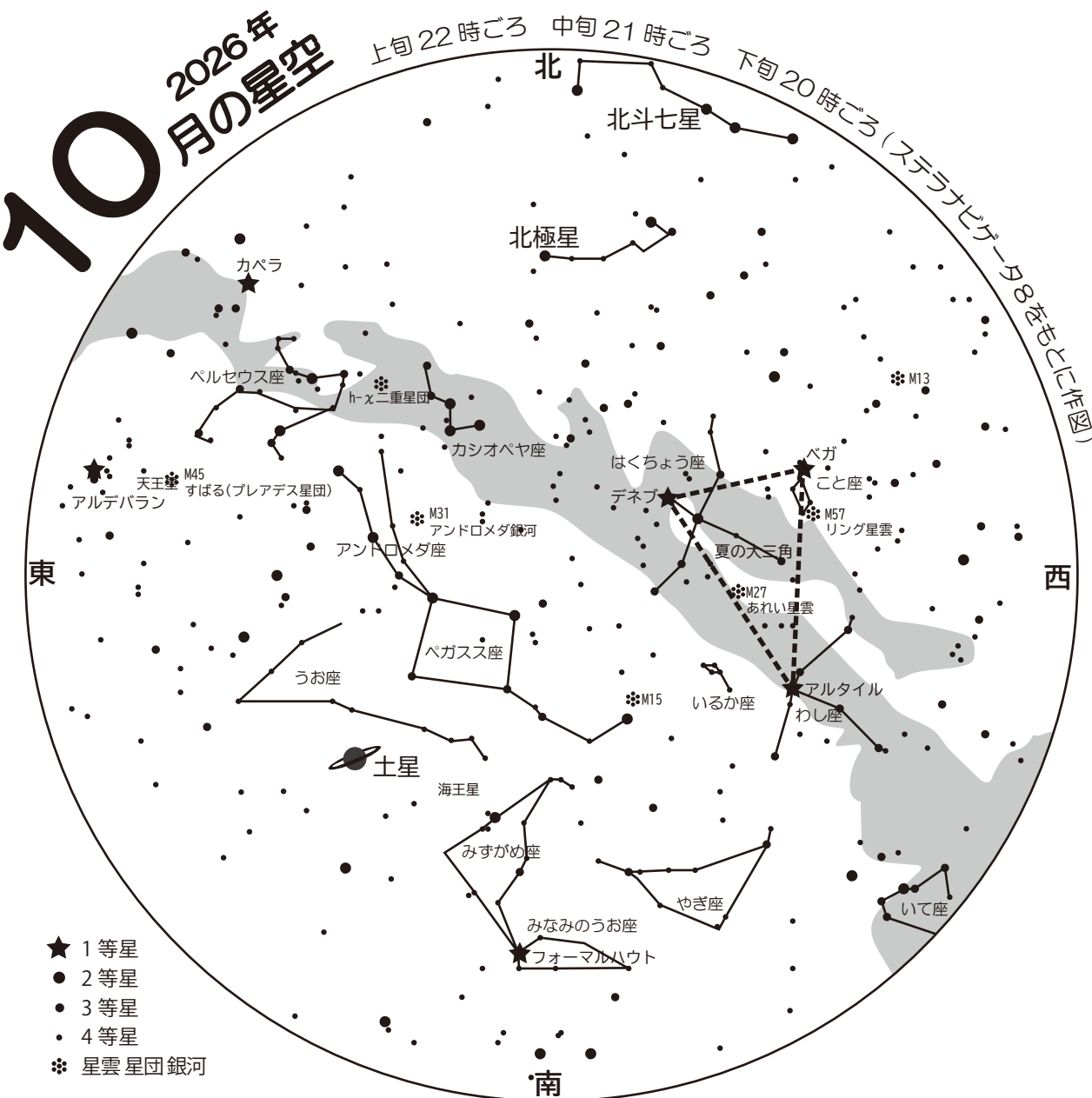
ペガサス座の M15、みずがめ座の M2、ヘルクレス座の M13 などの球状星団が見られる季節です。球状星団は、数十万の恒星の集まりです。夜空が暗く澄んでいる晩に荒木望遠鏡をのぞくと、最初はぼんやりとしか見えないかもしれませんが、目が慣れると、まるで黒い画用紙の上に白い砂粒をまいたように見える姿は圧巻です。

★銀河（ぎんが）：Galaxy

太陽のような星が数千億個集まった星の大集団が銀河です。私たちの太陽系も、「天の川銀河」と呼ばれる銀河に属しています。アンドロメダ座にある M31（アンドロメダ銀河）は、私たちの天の川銀河のお隣（距離 230 万光年）の銀河です。数十億年後この 2 つの銀河は合体し、1 つの巨大な銀河になると予想されています。空の暗い場所では肉眼でも光のシミのように見えます。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は、安定して輝く時期が長く続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。ガーネット・スターとも呼ばれる、ケフェウス座の μ （ミュー）星は、このような赤色超巨星と考えられており、直径は太陽の 1400 倍も大きいことが観測されています。



10 月 4 日土星が衝 & 10 月 20 日 MMX 打ち上げ

- 土星が衝となり観察の好機を迎えます。昨年春に環の傾きが真横になったため、現在は環の傾きがとても小さく、環の細部の観察は難しいですが、これから年を追って環の傾きは大きくなっていきます。
- MMX は JAXA を中心に NASA やヨーロッパの宇宙機関が参加するサンプルリターンミッションで、火星の衛星「フォボス」からサンプルを採取し地球に持ち帰るとい、世界初の試みに挑みます。約 1 年かけて火星圏へ到達し、その後約 3 年間火星圏に滞在し探査を行います。地球へのサンプルリターンは 2031 年の予定です。10 月 20 日（火）午前 4 時 41 分に種子島宇宙センターから打ち上げ予定です。